

第1週（1月31日～2月6日）・ 第2週（2月7日～2月13日）

- kWh余力率は、各ブロックとも**第1週は20%以上、第2週は14%以上**を確保できる見通しであり、直ちに需給対策を実施する状況にはない。

※余力率が10%以上の時は小数点以下を切り捨てて表記しており、同一余力率でもブロック分けが異なる場合がある。

- なお、需要の増加や燃料調達の遅延、ベースロード電源の計画外停止等によりkWh余力が減少する可能性があるため、今後もモニタリングを継続する。

※例えば、大規模なベースロード電源（100万kW）が停止すると、kWh余力率を約1%押し下げる事になる。

第1週（1月31日～2月6日）

北海道
20%

北陸
20%

東北
20%

九州
20%

中国
20%

関西
20%

中部
20%

東京
20%

四国
35%

第2週（2月7日～2月13日）

北海道
24%

北陸
14%

東北
24%

九州
26%

中国
24%

関西
24%

中部
24%

東京
24%

四国
47%

・kWh余力率は連系線の空容量の範囲で、極力同一の余力率となる電力融通の実施を想定したものであり、空容量が十分にあれば、同一のkWh余力率となる。